

HEIB講座（公開講座）

強いチーム作るには

Vリーグ「武富士バンブー」部長が講演

HEIB（ヒーブ）講座の公開講座が10月21日、神田キャンパスで約30人が参加して開催された。Vリーグ女子バレーボールの「武富士バンブー」チームの永田幸雄部長を講師に迎え、独自のコーチング法、チーム運営で強いチーム作りへの挑戦が披露された。

永田氏は筑波大学大学院でスポーツ医学を専攻後、米国でNATA（全米アスレティックトレーナー協会）認定トレーナー資格を取得。現在、武富士バンブーの部長兼トレーナーとして活躍している。



▲永田部長（左）への質問も活発に

講演で永田氏は、日本の女子バレーボール界は60、70年代の黄金時代をピークに80年代以降低迷が著しい。その原因の一つとして、各チーム内の運営に問題があると指摘。上に立つ男性中心の運営を見直し「女性の能力を開発し発揮出来るチーム作りを」と強調。

具体的な試みとして、目標意識の明確化、コミュニケーションの促進、業務の客観的評価など10項目をあげ、「自己学習する組織、組織の社会環境の整備が大切」とした上で、「選手、コーチングスタッフのレベルを上げ、名実共にバレー界をリードするチームにしたい」と自らの目標を語った。ビジネス社会にも共通する内容で、会場からは活発な質問が飛び出した。

講演後は、同講座卒業生と会員による懇談会が開かれた。昭和から最近までの時代の卒業生が集い、HEIB講座の近況報告や思い出を語り合い、親睦を深めた。また、運営委員の教員と卒業生からは「さらなる交流を通して卒業生同士のネットワークを作りたい」という声が上がった。

同24日には生田キャンパスで、夏合宿学生企画グループ研究公開発表会が開催され、2グループの発表が行われた。

内定者Cafe

学生の目線で本音を語る

「気楽」にまじめな話をしよう！

内定を勝ち得た4年次生が後輩たちの疑問に答える「内定者2006」が10月21日、生田キャンパスで開かれ、約70人の3年次生が参加した。

昨年、「自分たちの就職活動をぜひ後輩に伝えたい」という有志の声から始まったこの企画は、参加者自らが「ヒントを見つけに行く」というスタイル。異なる業界、企業規模、社風の企業に内定した15人が「海外留学を経て就職活動へ」「Uターン就職って？」「面接最終兵器 素直と笑顔」などをテーマにブース形式でそれぞれの「シュウカツ」必勝ポイントを話した。



▲座談会でも積極的な質問が

配布された資料には、活動スケジュール「私の就活日記」などのほかに、「経済事情(スーツは〇〇で2着購入。ワイシャツは2枚で乗り切った)」や「息抜き方法(カラオケ・スポーツ)」「三種の神器(笑顔・あいさつ・元気)(スケジュール帳・腕時計・質問)」といった経験者ならではの細やかな記載と共に、就職相談に応じていた就職課スタッフからのコメントがあり、親しみやすく手作り感があふれている。

アンケートでは「『学生の目線』から『就活』への考えが聞けたので不安が解消された」「より現実的なものとして理解出来た」「楽しむくらいの気持ちで乗り切ろうと思った」「1展開ごとの時間がもっとほしかった」「来なかった人はもったいない」という声が多く、参加者は「シュウカツ」に対する意識が一歩リードしたようだ。

ブース形式での相談後は、就職課資料室で座談会が開かれ、昨年この企画を立ち上げた卒業生3人も社会人の先輩として経験を語ってくれた。

就職課では今後も4年次生やOB・OGとの交流の場を設けるといふ。積極的に参加しよう。

《New Ground- 新しい見方<7>》

新鮮な喜び…発掘調査体験ツアー

泉田 崇之 (文1・ジャーナリズム研究会)

大学生の夏休みは高校生のころに比べて退屈だと思ったことはないだろうか。私は退屈な夏休みを過ごしていたので、新しい発見を求めて学生部主催の発掘調査体験ツアーに参加してみた。

初日は、博物館や遺跡などを巡ることによって見識を深める。その後、自分たちが参加する遺跡の発掘方法について先輩方から話を聞いた。私が発掘に参加した遺跡は、高崎市の山名伊勢塚古墳。墳丘の長さが70メートル前後の2段に築かれた前方後円墳で、6世紀後半の築造物と推定される。

2日目は実際に発掘作業に参加する。始めは掘っても掘っても何も出ない。何かが見つかったとしてもたいした物ではない。しかし、掘っている土の地層や固さからその土が現代に近いのか、それとも遺跡の作られた時代に近いのかななどを推測しながら掘っていると、意外に楽しい。さらに土の中から埴輪片が出てくれば、喜びはさらに増し、今までの苦労も吹き飛んでしまう。発掘している遺跡の跡を見ることによって、改めて古代の古墳がどのようなになっているのかを知るのも興味深い。このように、今までにない新鮮な体験を味わえる。

もしあなたが毎年長い夏休みに毎日退屈しているのであれば、発掘調査体験ツアーに参加してみることをお勧めしたい。発掘作業では勝手な行動は許されず、ただひたすら忍従を強いるだけ。確実に手に入るものは腰の痛みや汗と泥にまみれた服だけかもしれない。しかし、発掘という未知なる体験を通して、充実した時間を過ごせることは間違いないのである。

《マンガ》

フィクションだよ！フィクションだって！

(漫画研究同好会・しまはるき 作)

